

豊かな自然にかこまれて

高野小学校 6年

岸波 日和（きしなみ ひより）



ずっと楽しみにしていた修学旅行。わたしは、とてもわくわくしていました。東京の街は、行くところ、行くところ、どこも楽しくて、おもしろい物がたくさんありました。その中でも、特に心に残ったことが二つありました。

一つ目は、東京スカイツリーから見た景色です。きれいな建物や大きなビルがたくさんあって、それがどこまでもずっと続いているのがすごいと思いました。まるできれいに作られた模型のように見えました。

二つ目は、地下鉄に乗った時のことです。地下のトンネルの中を走っていることも、満員でたくさんの人が立って乗っていることも、駅の混雑も、テレビで見るのとは違って、実際に体験してみるとおどろくことばかりでした。

帰りのバスの中でも、疲れを忘れて、友達とずっとおしゃべりをしていました。学校が近づくころには、
「もうすぐ着いちゃうね。」

「このまま、学校に着かないといいのにね。」

と、みんなで残念がっていたほどです。

それなのに、むかえに来てくれた母の車に乗り、窓から田んぼを見た時に、「やっぱり高野はいいな」と思ったのです。どうしてそんな気持ちになったのか、わたしはいろいろと考えてみました。そして、それはきっとわたしが住む高野と東京の違いにあるのだらうと思いました。東京の街はきれいだったけど、わたしがいつも見ている緑の木々や草花はあまりありませんでした。

わたしが住む家や学校の周りは、豊かな自然にかこまれています。わたしが特に好きなのは、田んぼの景色です。春の田植えのころは、用水路から水が引かれて田んぼが鏡のようになります。夏には緑のカーペットに見えます。風でゆれると色が変わって、とてもきれいです。秋には、いなほが金色になります。いねかりが近づいたころのこの景色が、わたしの一番のお気に入りです。田んぼでえさを食べる白いサギがいる景色も、とてもきれいです。

それから、わたしの家の近くには、久慈川が流れています。源流に近いところなので、水がとてもきれいです。わたしは夏になると、家族で川に遊びに行きます。きれいな石を集めたり、水遊びをすることもできます。弟たちは、つりをします。アユやヤマメなどがつれます。東京に住んでいる人たちは、こんなにきれいな景色を見ることができるのでしょうか。川で水遊びをしたり、魚をつかまえたりできるのでしょうか。きっとできないと思います。

もう一つ思ったことがあります。それは、高野には、わたしをはげまし、支えてくれる人たちがいてくれることです。東京にはたくさんの方がいたけれど、みんなだまって通り過ぎて行ってしまいう知らない人ばかりでした。高野には、下校の時に、

「気をつけて行くんだよ。」

と声をかけてくれる地域の方がいます。

「がんばってね。」

とはげましてくれる友達や家族がいます。いつもみんなに見守ってもらいながら生活していることに気づきました。

わたしは、修学旅行で東京に行くことによって、改めて自分が住んでいる高野のよさについて考えることができました。わたしが大好きな田んぼの景色も、久慈川のきれいな水も、声をかけてくれる地域の方の姿も、東京にはありませんでした。そこにあって当たり前のように思っていたものが、実はとても大切なものだということに気づきました。毎日何気なく見ている景色のすばらしさや、温かく見守ってくれる人のありがたさに感謝しながら、残りわずかとなった小学校生活をがんばっていこうと思います。